

「へエ長崎へ参りまして買ふて來ましたんや大阪へ持つて歸りまんね」

「随分高價なもんだすやろうな、何程ほど致します」

「千兩だす」

「彼れ一個が千兩だつか随分高價な物だすな」

「モシ大阪のお方はん」

「へエなんだす」

「そんな堅い話をせんと何うだす退屈をせん様に此處で當て物をしまへうか」

「モシ當て物てなんだす」

「子供がよう云ふてまんがな、畑の中で蚊帳を釣つて赤い顔をして寝てる物は何、ほうずき、こんな事を云ひまんね」

「ア、さよか、私何も知りまへんねが貴郎云ふとくなはれ」

「宜しい私が云ひますが貴郎がその品物を當てなはつた

「そんなら今度は食ふ時食わん物で、食わん時に食ふ物何」

「コレハ解つてます、狼だすか」

「違ひます」

「そんなら何んだす」

「解らなんだら一文お呉んなはれ」

「品物は」

「魚釣りの辨當だす、魚が食ふ時は食へまへん、魚が食はん時に辨當を食ひます」

「成程貴郎はん中々上手だすな、此度は十文賭けまへう」

「モシ一文にしときなはれ」

「イヤ十文いきます、モウ一遍云ふとくなはれ」

「そんなら云ひますせ、身の丈が三尺程で目も鼻も口もなんにも無いのに足一本で世界中何處へでも行く物は何」

ら褒美に私が貴郎に一文あげます、その替りに貴郎が品物を能う當てなんだら私が貴郎から一文貰ひまつせ」

「イヤ宜しおます、貴郎先に一つ云ふとくなはれ」

「そんなら私から云ひます、いる時にいらん物でいらん時にいる物は何」

「そらお錢だすやろう、いる時にいます、いらん時にいます、いらん時にいらん物で、いらん時にいる物だす」

「甚い六ツケ救いもんたすなア解りまへん」

「解らなんだら一文貰ひまつせ」

「品物は何んだす」

「風呂の蓋だす、這入る時不用で這入らん時に蓋が入用だす」

「アアさよか、そんならモウ一遍云ふとくなはれ」

「解りまへん約束どほり十文出します、品物はなんたすね」

「唐傘だす」

「成程、今度は百文いきます」

「どうない仰山になりましたな」

「へエ百文いきますモウ一遍云ふとくなはれ」

「宜しい矢ツ張丈が三尺程で色が青とも赤とも紫とも黒とも解らん目も口もなんにも無うてぬる／＼してる物は何」

「コレハ解つてます、鰻だすやろう」

「鰻に三尺もある大きな鰻がおますか」

「そんなら鰻だつか」

「鰻には目も口もおますがな」

「そんなら蚯蚓だつか」

「蚯蚓に三尺も有るのがおますかいな」

「大人國の蚯蚓」